

生命のにぎわい通信

第75号：令和7年(2025年)7月 発行

発行：千葉県環境生活部市自然保護課
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
(千葉県立中央博物館内)

TEL:043-265-3601 FAX:043-265-3615

URL:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

E-mail:monitor@bdcchiba.jp

雨上がりのカタツムリ探し

雨の季節になりました。この時期の季節報告にアジサイの開花があります。日本が原産と言われるアジサイですが、近頃は豪華でカラフルな西洋アジサイ（ハイドランジア）が人気ようです。切り花にすると室内を華やかに彩りますが、昔ながらのアジサイが戸外で雨に濡れそぼつ姿もまた、風情があります。

アジサイと言えばカタツムリ。今年は雨が少ないようで元気になっているかが心配です。

皆さまから今までに寄せられたカタツムリを紹介します。写真上は団員番号です。

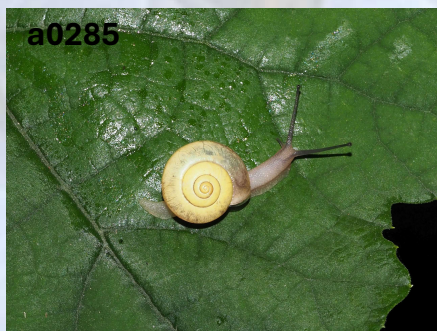
カタツムリとは

カタツムリは軟体動物門腹足綱に属する巻貝の仲間です。巻貝のうち陸上に住むものがカタツムリです。カタツムリの貝殻が退化したものがナメクジで、カタツムリとナメクジを合わせて陸産貝類または陸貝といいます。日本では、カタツムリとナメクジが約800種知られており、その多くが日本の固有種です。長い距離を移動することの無いカタツムリは、南北に長く島が多い日本で、多様な種分化を遂げたのです。

大半のカタツムリは森や林の地面付近を這って暮らしていますが、なかには木登りの得意な樹上性のものや、草むらや朽木を好むもの、種類は少ないですが畑や公園、庭など開けた場所を好むものもあります。



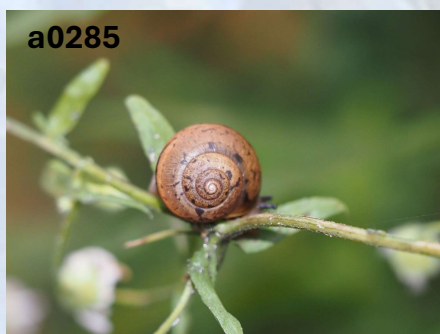
オオケマイマイ



コハクオナジマイマイ



ミスジマイマイ



ウスカワマイマイ



ニッポンマイマイ



ヒタチマイマイ

殻の巻き方には、右巻きと左巻きがあります。カタツムリは多くの種が右巻きですが、ヒダリマキマイマイやキセルガイの仲間など、左巻きの種類もあります。殻がどう巻いているかは、殻の口が手前に来るように置いて判断します。殻の口が右にあれば右巻き、左にあると左巻きです。

活動中のカタツムリが観察できるのは、主に春から晩秋にかけてです。特に雨上がりは、カタツムリを探しに行くには最高のタイミングです。

まずは、身近な場所から探してみるのはいかがでしょうか。

(千葉県生物多様性センター 松坂 麻美)

参考文献

武田晋一・写真 西浩孝・解説 カタツムリハンドブック 文一総合出版(2015)

野島智司 カタツムリの謎 誠文堂新光社(2015)



ヒダリマキマイマイ

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター:<https://www.bdcchiba.jp>

古典文学と里山の生き物たちの世界

第二十九回 キタキチョウ

Eurema mandarina シロチョウ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラムW杯日本代表詩人の大島健夫が、生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

チョウというのは、現在では最も人気のある虫のひとつです。しかし、古典文学には驚くほど少ししか登場しません。あれほど多種多様な生き物が登場する『万葉集』にも、チョウが直接に詠まれた歌はないのです。

これには、古代中国から伝わった、「チョウは死者の魂である」という概念が、奈良時代には既に日本に広く膾炙^{かいしゃ}していたことが大きく影響しています。あの世から来たものであり、どちらかと言えば不穏な存在であるチョウを、恋だの愛だのの世界に持ち込んで歌にして好きな人に贈ったりすることは、ちょっとはばかれることだったのです。

和歌にあまり詠まれなかったチョウが文書に登場するのは、例えばこんな具合です。「文治2年(1186年)、鶴岡八幡宮の境内に満ちるほどの、黄色いチョウの大群が現れた。普通ではないというので臨時に^{かぐら}神楽が奉納された。すると、八幡大菩薩^{たぐせん}のご託宣^{あづまかがみ}が下り、反逆者が発生することが予言された……」これは、鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』の記述です。もちろん、吾妻鏡というのは幕府の公式出版物で、幕府に都合の良いように書かれていますから、一語一句そのままには受け取れません。何しろこの頃、将軍源頼朝率いる鎌倉幕府は、奥州へ逃亡した源義経を血眼になって追っていたのです。義経はやがて本当に逆賊とされ、衣川の館で死ぬことになるのは歴史の教科書に書いてある通りです。吾妻鏡にはこの27年後にも黄色いチョウが群飛した事件が描かれており、その際は有力な御家人である和田氏の一族が^{ほうき}蜂起して滅ぶという政変に繋げて述べられています。要するに、黄色いチョウが群れて飛ぶという光景は、幕府から見て気に入らない者が「反乱」を起こすことの象徴として記録に残されているのです。チョウというのはそういう存在だったのです。



画 齋藤倫瑠

群れて飛んだこの黄色いチョウは、おそらくキタキチョウであったことでしょう。この、モンシロチョウやモンキチョウより一回り小さいレモンイエローのチョウは、年に数回、成虫が発生し、しばしば群をなして飛びます。いまの感覚でみると、とても可憐な美しいチョウです。普通種として都市部でもみられるチョウですので、是非こんど、じっくり観察なさってみてください。

<これからの季節に観察できる生き物>

○調査対象種：セミの仲間、ヒガシニホントカゲ、カワセミ、サワガニ、ヤマユリなど

○調査対象種以外

- *渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類
- *各種昆虫、両生類、は虫類など
- *希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

<みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ>

ナガエツルノゲイトウ等の「外来水生植物」が県内で拡大中であり、生態系や農林水産業への被害が問題になっています。

これらの分布の最新情報を集めるために、スマートフォンアプリ「Biome（バイオーム）」を使用した調査「みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ」を実施します。実施期間は7月1日から11月14日です。

団員の皆さまのご協力をお願いします！

ダウンロードは
こちらから

いきものコレクションアプリ
Biome（バイオーム）

※無料・広告なし、別途通信費が必要です

